

産経新聞社

知を楽しむ人のオピニオン誌

月刊

正論

私の写真館

My Photo Studio

アルバムの中に(81)

東京理科大学大学院教授

周 英明



福岡県八幡市の小学校に入学した頃 = 昭和15年

日本国民として生まれて

昭和八年、福岡県八幡市で在日台湾人の家に十人兄弟の八番目として生まれた私は、子供の頃「ひであき」と呼ばれていた。台湾人の父は十一歳で“内地”に来て以来、鉄道省の技師として四十年以上を過ごし、すっかり日本の水に馴染んでいた。十人兄弟はみな日本で生まれ、日本の小中学校に通っていた。私もまた日本人であることに何の疑いも持っていなかった。わが周家は、昭和二十年八月まで“日本国民”だったのである。

大東亜戦争の敗戦は悲しかった。進駐軍がくるというので、私は姉に付き添って山里の知人宅に避難した。「どんなことがあっても姉を守ってみせる」。子供心にも必死の決意だったが、やがて周りの台湾人の間から「もともとわれわれは日本人ではない。戦勝国の一員の中国人なのだ」という論が喧伝されるようになった。しかしそう言われても、私には中国人という実感は皆無だった。では日本人でなくなった自分は一体何者なのか…。

父は終戦と同時に失職し、私たち一家は日本国民としての保護

を受けられない立場になった。一生日本で生活するつもりだった父は生活の基盤をすべて日本に置いていたが、とにかく台湾に一時“避難”して、終戦の混乱が収まったら日本に帰ってこようと決断した。九州台湾省民会のメンバー約百人とともに日本を後にしたのは昭和二十一年。まだ見ぬ“祖国”に向けて鹿児島を出航した巡洋艦萩の船上から、波間遠くに開聞岳の頂を見たとき、「これで日本は見納めかもしれない」とひどく感傷的になったことを今でも思い出す。すぐに帰ってこられるという父の予想よりは、私の直感のほうが当たっていた(談)。



結婚の翌年(昭和40年)、長女・麻那が誕生し、その翌年には長男・士甫が生まれた。私たちは二人の子供に日本の教育を受けさせた。私と金美齡は台湾独立のために最後までやらなければならないが、子供たちには日本で生まれ育ったそのアイデンティティに忠実に生きるようにと諭した。写真は士甫の入学式 = 昭和47年、東京・代々木小学校

台湾人として生きる覚悟

基隆の港で味わった屋台の団子汁の美味さは、私にとって台湾という国への愛情の原点となったが、同時にそこで目にしたのは、蒋介石率いる国民党の兵隊だった。浮浪者に近い無残な姿で、その振る舞いはとても戦勝国の兵士には見えなかった。戦前の日本は教育の普及や産業基盤の整備とともに、「公」の概念と法治主義を台湾に持ち込んだが、それと対極の存在が中国人だった。日本に代わって台湾を支配した彼らは、遵法精神も、衛生観念も、教養もなかった。いわば貪官汚吏が支配者となったのである。日本統治時代を無条件に賛美する気はないが、これは大きな違いだった。やがて台湾人の多くが日本時代を懐かしみ、蒋介石の支配に反発を強めるようになっていった。

私たち一家は、父が高雄市に台湾国鉄の技師職を得られたこともあって、その鉄道官舎で暮らすことになった。蒋介石の「以德報怨」は日本人には一面の真実だったかも知れないが、台湾人に対する支配は苛烈を極めた。台湾人の知識層が根こそぎ虐殺された「二・二八事件」は、恐怖とともに私の記憶に焼き付いて離れない。それはまた中国人ではない台湾人としてのアイデンティティーを私

に刻み付けた事件でもあった。

蒋介石支配の台湾にはいられない　　そう思い詰めて、肉親と別れ、日本への留学の道を選んだのは四十年前である。さまざまな危機と背中合わせに台湾独立運動に携わってきた。長い長い時間が過ぎ、台湾がついに自由化・民主化へと歩を進めたのは一九八八年、李登輝の総統昇格からである。そして二〇〇〇年、その流れを引き継ぐ陳水扁が民選総統となったとき、私は東京でそれを伝えるテレビ画像に釘付けになったまま、溢れる涙をおさえることができなかった(談)。

しゅう・えいめい=昭和八年(一九三三年)福岡県八幡市生まれ。台湾大学工学部電気科卒。昭和三十六年、日本国文部省の国費留学生として来日。東京大学工学系大学院博士課程修了。昭和五十八年東京理科大学教授。平成八年同大学理工学研究科長。(社)プリント回路学会会長。昭和六十年より月刊『台湾青年』発行人。近著に『日本よ、台湾よ』(金美齡夫人との共著、扶桑社)がある。

[月刊「正論」購読お申し込み](#)

seiron@sankei.co.jp

産経Webに掲載されている記事・写真の無断転載を禁じます。すべての著作権は産経新聞社に帰属します。(産業経済新聞社・産経・サンケイ)
Copyright 2001 The Sankei Shimbun. All rights reserved.
